



～街と大学の共存共栄～

ハッピーロード 尾山台の巻



世田谷キャンパスの学生が 日々行き交う商店街、ハッピーロード

東急大井町線尾山台駅と環状八号線を繋ぐハッピーロード尾山台。駅周辺の4つの商店街の1つで、世田谷キャンパスへの通学路として利用する学生も多く、古くから本学とゆかりの深い商店街です。尾山台商栄会商店街振興組合の木村理事長は「前身である尾山台商栄会は1949年に発足しました。ちょうど学制改革で武蔵工業大学が誕生した年で、都市大とともに歩んできた商店街と言えます。現在も商店街には都市大の旗が掲げられ、入学・卒業を祝う横断幕も春の恒例となっています。毎年10月に開催される地域の一大イベント、尾山台フェスティバルでは都市大の放送会の協力を得て、高価な音響機器をお借りして、商店街としても大変助かっているんですよ。コロナ禍により2020年の尾山台フェスは通常開催が見送られましたが、世田谷、等々力キャンパスの学生団体の協力もあり、オンラインで開催することができました。商店街の商品を学生

さんが宅配する『おやフェスデリ』のアプリを開発してくれて、自粛ムードのなかでも、嬉しいニュースを提供してくれましたね」



尾山台商栄会商店街振興組合
木村 高章 理事長

2020年は都市大の学園祭も中止になり、尾山台フェスのオンライン開催に学生さんが活躍の場を求めてくれました。商店街でアルバイトしてくれる学生さんも多く、都市大はなくてはならない存在です



タカノ洋品店の店主で、尾山台商栄会商店街振興組合 理事(一社)おやまちプロジェクトの代表理事を務める高野 雄太さんと、母の森 美恵子さん

「今では都市大の学生さんが、尾山台の魅力を発信してくる存在になっています」(高野さん)。「学生さんはかわいい孫のよう。いつも応援していますよ」(森さん)。



ハッピーロードの老舗店主、高野さんが本学へ、より繋がりのある地域連携の重要性を提案

ここ数年で商店街と本学の繋がりは、より密になってきました。そのきっかけ、橋渡し役となってくれたのが、ハッピーロード尾山台の老舗、タカノ洋品店3代目店主である高野雄太さんです。「尾山台は都市大とともに発展してきた街です。ハッピーロードを往来する学生も多いですが、通過するだけの通学路ではもったいない。もっと学生を含めた地域の繋がりを密にできたらと考え、2016年に都市大の地域連携センター(当時)に相談しました。そこでご紹介いただいたのが、都市生活学部 坂倉先生。先生はコミュニティマネジメントを研究しており、ちょうど都市大と尾山台の地域連携の重要性を考えていたそうで、すっきり意気投合しました。その後2017年4月、坂倉研究室がハッピーロードで、「都市大との連携による尾山台商店街のこれから」という主旨の路上ゼミを行いました。これが発端となり、尾山台の商店街でさまざまな試みを行う、『おやまちプロジェクト』が発足したのです」(高野さん)。